

1頁 議長就任のごあいさつ  
 5頁 【声明】日本学生支援機構による各大学の「奨学金延滞率」の公開に強く抗議する  
 6頁 【OPINION】教育勸語から思う  
 7頁 教職員共済加入のご案内  
 8頁 企画案内・編集後記・活動スケジュール

## お袋からの初めての相談

—議長就任のごあいさつに代えて—

二〇一七年度京都私大教職員組合公費助成推進会議

議長 神谷 勝広

実家で暮らすお袋は、勝気な人で、たまにしか電話もしてこない。仮に電話があつても、数分で、あつという間に、いつもの決まり文句。「あんたは、忙しかろう。帰省せんでいい」と早口で言い、乱暴に電話を切る。息子の私が、お袋の体の調子（白内障や膝の術後の経過）を尋ねる隙すら与えようとしない。

ところが、一度だけ、すぐ帰省してこいと言いだしたことがある。驚いて取るものも取りあえず、実家に戻った。「お袋、何ごとだ」と尋ねても、暗い表情のまま答えようとしない。一時間ほどして、やっと口を開き「一昨日から、眠れんのよ」と言う。

そして、「テレビでなあ、奨学金の返済で苦勞している若い子たちを見てなあ。お姉ちゃんのとこの、娘と息子も、ぼちぼち大学だ。心配で心配でなあ。奨学金っていうのは、奨学金じゃなかったのか。年寄りには、ようわからん。どうなつとらん」。

そういえば、姉の子たち（私から見れば、姪と甥）も、高校生になつていた。お袋は小さな声で、「あんたに相談がある。それで呼んだのよ。お姉ちゃんのとこの、子供二人のなあ、学費を私が出したらいかんか」。生まれて初めてお袋から受けた相談だった。

「お袋の思うようにしたらいい」と笑つて言う、「ああ、ほつとした。私は寝るよ」と言い、そそくさと布団に潜り込み、寝息をたて始めた。

お袋は、孫たちのため、不義理な馬鹿息子の私に初めて相談事をした。実家は、裕福とは言い難いが、お袋が近くの工場へ働きに出ていくれたお蔭もあつて、いくばくかの蓄えがあつた。もちろん、それを孫二人の学費に使えば、ずいぶん蓄えは少なくなる。それでも、お袋は、孫たちの将来が心配になつていた。

今、本当に多くの方々がお孫さん・娘さん、あるいはお孫さんの将来を案じていらっしゃると思います。教育は、(未来)そのものです。その(未来)を支える重要な手段が奨学金制度です。

しかし、その奨学金が、実は「貸与」になっています。日本育英会の奨学金は、かつて無利子でした。それが三〇年ほど以前に、有利子枠が作られ、現在は、奨学金を利用する大学生の三分の二が有利子枠となっています。無利子枠が少ないため、基準を満たしていても、無利子枠での貸与が受けられない学生も多いのです。

公費助成を推進する活動は、(未来)を支えます。何卒、皆さまの御力をお貸しください。

